



洋書輸入協会会報

Vol. 32 No. 4 (通巻371号) 1998年4月

理事会報告

3月24日(火)

1. 2月分収支について総務委員長の報告を了承した。
2. 委員会報告
 - ・1998年度予算案を策定した。(総務)
 - ・専門的な寄稿記事が定着したが、全体の内容と構成を一層充実させたいので意見を寄せて欲しい。(会報)
 - ・1999年の東京国際ブックフェアは「世界本の日」に合わせて4月23日(木)～25日(日)に開催される。和書バーゲンセールも限定的に実施される模様である。(事業)
 - ・1998年版は予定通り4月下旬出来の見込みである。99年版以降についてはその後に検討を開始する。(ダイレクター)
3. 1998年度予算/総務委員会案を了承し、理事会案として総会に提案する。
4. 関野理事(トッパン)が3月末で社長を退任、後任には由里 洋氏が就任される。
5. 規約改正委員会報告

3月13日より第1回改正作業開始、第14条まで点検を終えた。4月中には全体の検討を終了させたい。(渡辺委員長〔洋版〕)

海外ニュース

ブッカー賞の危機

イギリスで最も高い評価を得ている文学賞、ブッカー賞に対する企業の後援が危ぶまれている。これは同賞を後援している食品流通業者の経営状態が悪化したことが原因である。

3年前に経営を建て直すために招聘された Mr. Charles Bowen, Chief Executive は資本金50億ポンドの同社を去り、そして今、同社が解散し売却されるとの憶測がなされている。

ブッカー賞を管理している Mr. Martyn Goff は「スポンサー企業が分割されてしまうのではないかと危惧しているし、そうなった場合の状況は予測し難い。ブッカー賞のための株式公開会社が存在すれば、問題は少なくなるのだが」と語った。

THE BOOKSELLER/MARCH 20, 1998

書店売上アップ

アメリカ国勢調査の予備的試算によると、書店の1997年の売上高は2.4%アップの118億2千万ドルに上ったとのことだ。書店での売上高の伸びは、小売り全体の伸び3.3%を僅かに下回った。

目次

理事会報告・海外ニュース	1・2
文化厚生委員会だよりほか	2
1997年洋書輸入通関統計(後編)	3・4

パソコン外論考(其6)	5
日英語の比較、新しい発想	6・7
広告	8

書店売上の伸びは、比較的好調だった1997年末2ヶ月間の数字が功を奏した結果で、11月の売上高が4.8%アップの9億1,200万ドル、12月の売上高(試算段階)が、対前年比6.5%アップの16億3,000万ドルであった。

PUBLISHERS WEEKLY/MARCH 23, 1998

ユーロ通貨—混乱必至か?

懸案となっているユーロ通貨導入で「大混乱が起こる」と、EUROPEAN BOOKSELLERS FEDERATIONのMr. John Hitchin, Presidentは言う。彼はまたイギリスの書籍業界に対して、ユーロ導入の準備をすぐに始めるよう警告している。ロンドン国際ブックフェアで開催されたユーロ関連のセミナー(PUBLISHERS ASSOCIATION主催)の席でMr. Hitchinは「我々が詳細を検討せねば、通貨の交換で大混乱がおこるのは必至である」と述べた。

イギリス政府は来年のユーロ通貨導入には参加しないことにしているが、同国の書店および出版社は導入の影響を受けるだろうとMr. Hitchinは言う。書店としてはコストとロジスティクス(顧客の要求を取入れてシステムや製品を設計したり、それに基づいて研究開発、生産、流通システムや製品の運用に必要な資源の効率的な管理をする手法)の面から、新しい通貨問題の矢面に立たされることになるだろう。ユーロ通貨導入を処理するために書店が負うことになるコストは、取引高の約1%から3%程度となり、書店の利益は約2.5%となると予測される。

ユーロ通貨導入のタイミングと、2つの通貨を並べて表示するとも(ユーロ通貨は2002年1月1日をもって流通し始める)、新たな負担を生み出すだろう。

THE BOOKSELLER/MARCH 27, 1998

事務所を移転しました

会員名: (株)トッパン

新住所: 〒108-0023

東京都港区芝浦3-19-26

トッパン芝浦ビル

Tel: (03)5418-2535

Fax: (03)5418-2529

移転日: 1998年3月30日

文化厚生委員会だより

第87回 72会ゴルフコンペ

狭山ゴルフクラブ 1998.3.27(金)

天気予報は雨、少し肌寒い小雨の中でのスタートとなりました。多忙のこの時期に4組15名の参加、仕事も忘れ賑やかなラウンドとなりました。珍しく雨模様と思っていたら、数ホールで雨も上がり風もなく、この72会は雨も悪天候も避けて通ると云う伝説は生きているようです。

16号線の渋滞を避け、練馬I.C.から圏央道、入間I.C.を経てクラブ迄40分。武蔵野の林に囲まれた名門『狭山ゴルフクラブ』は中林さん(日貿)のホームコース。久し振りの舞台となりました。フラットで広々としたコース、手入れの行き届いたフェアウェイ、グリーンながら、両側の林、グリーン周りのバンカー、難しいグリーンと中々手強いコースでした。

優勝は前回も優勝の斎田さん(三善)。素晴らしいゴルフを展開され、ドラコン、ニアピン、ベストグロス賞も獲得され実力通りの活躍でした。2位は前はブービーと低迷していた西山(西山洋書)が運にも恵まれ久々の入賞、だからゴルフは面白い。3位は中林さん(日貿)。プレイもさることながら、雨の予報も天気が好くてよかったとの皆さんへの心配りに感謝と拍手。入賞者のスピーチや初参加の佐藤さん(日貿)、鶴さんのご子息竜次さん(東亜ブック)等の愉快的なスピーチが続き、鶴さん親子での参加が微笑ましく、笑顔と笑い声の中でのお開きとなりました。

成績表

優勝	斎田利幸(三善)	91	6	85
2位	西山久吉(西山洋書)	104	16	88
3位	中林三十三(日貿)	100	9	91
4位	村上道夫(東京ブックランド)	101	10	91
5位	鶴三郎(東亜ブック)	100	7	93
ベストグロス	斎田利幸(三善)	G91		
ドラコン	斉藤純生(UPS) 斎田利幸(三善) 村上道夫(東京ブックランド)×2			
ニアピン	鶴三郎(東亜ブック) 斎田利幸(三善)			

(西山洋書 西山記)

1997（平成9）年1～12月、洋書輸入通関統計とその分析（後編）

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

7. 主要6カ国以外の国からの洋書輸入状況

（表6） 主要6カ国以外で、1997年1～12月に、書籍又は新聞・雑誌のいずれかで、1,000万円以上が日本へ輸入されている国の一覧表と総合順位

（単位 百万円）

国名	1997年1～12月			1996年 実績	前年比 %	1997年 総合順位	1996年 総合順位
	書籍	新聞・雑誌	計				
韓国	231	131	362	333	109	13	13
N.KOREA	26		26	27	96	25	26
中国	913	123	1,036	671	154	9	10
台湾	244	10	254	273	93	14	15
香港	2,489	299	2,788	2,349	119	6	6
タイ	34	90	124	85	146	18	22
シンガポール	2,907	507	3,414	2,836	120	5	5
マレーシア	64		64	96	67	22	21
フィリピン	13	3	16	189	8	26	16
インド	26	3	29	27	107	24	25
スウェーデン	16		16	—	—	27	—
デンマーク	23	141	164	164	100	17	17
アイルランド	122	73	195	303	64	15	14
ベルギー	120	4	124	60	207	19	23
スペイン	168	18	186	129	144	16	19
イタリア	535	307	842	815	103	10	9
ロシア	62		62	59	105	23	24
オーストリア	23	66	89	162	55	20	18
カナダ	53	17	70	120	58	21	20
ブラジル	57	527	584	485	120	11	12
オーストラリア	495	35	530	486	109	12	11
グアム		14	14	—	—	28	—

計22カ国 主要6カ国との合計28カ国

（注1） 書籍には単一シート、辞・事典を含み、新聞・雑誌には週4回以上を含む。

（注2） 総合順位は、主要6カ国を含んだもの。

〔分析〕

上記にリストアップした22カ国は、前年と数は同じであるが顔触れでは、インドネシアとアルゼンチンが抜け、スウェーデンとグアムが入った。主要6カ国を含めた上位10カ国は、米・英・独・蘭・シンガポール・香港・仏・スイス・中国・伊の順となっている。

1位・2位の米・英の合計は、61%のシェアであり、前年の59%を上回る。

8. 洋書関連商品

（表7） 1997年1～12月、洋書関連の商品別輸入通関統計表

（単位 百万円）

品目	1996	1997	前年比 %	1988	1988	
	輸入価額	輸入価額		輸入価額	対1997	
幼児用の絵本及び習画本	2,915	2,919	100	510	572	
楽譜	938	854	91	643	133	
地図・地球儀・天球儀	168	162	96	187	87	
海図など	106	105	99	33	318	
製本したもの	297	311	105	290	107	
その他のもの						
小計	571	578	101	510	113	
葉書	1,726	1,522	88	508	300	
カレンダー	紙製又は板紙製	1,990	2,406	121	750	321
	その他のもの	168	116	69	64	181
小計	2,158	2,522	117	814	310	
その他の印刷物	広告・雑誌カタログなど	6,414	5,897	92	1,023	576
	写真	1,147	1,722	150	1,230	140
	絵画・デザインなど	5,365	4,262	79	4,055	105
	その他のもの	31,098	38,022	122	7,498	507
小計	44,024	49,903	113	13,806	361	

（注1） 楽譜は、印刷したものと及び手書きのものに限るものとし、製本してあるかないか、又は挿絵を有するか有しないかを問わない。

（注2） 地図、海図その他これに類する図は、製本したもの、壁掛け用のもの、地形図および地球儀、天球儀その他これに類するものを含むものとし、印刷したものに限る。

（注3） 葉書は、印刷したものと及び挿絵を有するものに限る。また個人のあいさつ、伝言または通知を印刷したカードを含む。なお、この品目は'87までは、「絵葉書、クリスマスカード、その他これらに類する絵入りのカード」となっていた。

（注4） カレンダーは、カレンダーブロックを含むものとし、印刷したものに限る。

〔解説〕 今回は、輸出入商品の品目番号表が改正された1988年と'97年とを比較してみた。やはり品目により何倍にもなっているもの、横這いのもの、減少のものや成長に凹凸が多い。

9. マイクロフィルム

(表8) 1997年1～12月、マイクロフィルムの輸入通関統計表と、'90年以降の推移

(単位 百万円)

品目	1990	'94	'95	'96	'97	前年比	'90:'97
マイクロフィルム	780	524	527	614	551	% 90	% 71

(注) マイクロフィルムは、品目番号表の変更によって1988年から独立した項目になったもの。

10. CD-ROM

1966年から、輸入統計品目番号8524の枝番号が大きく変更され、CD-ROMは「レーザー読み出しシステム用のディスク音声及び画像以外の記録の再生用のもの」の項目に含まれている。

(表9) 1996、97年1～12月のCD-ROMを含む項目の輸入通関統計表

1996年1～12月、20,355百万円

1997年 " 31,700 " 前年比156%

[分析] CD-ROMを含む頭記の項目は、驚いたことに'97で317億円もの通関価額を計上している。書籍の'97は、354億円であるから、極めて歴史の浅いCD-ROMを含む項目と、長い歴史を持つ書籍とが、あまり輸入額に差がないという結果になっている。

11. 輸出

(表10) 1997(平成9)年1～12月、書籍、新聞・雑誌の輸出通関統計表

(単位 百万円)

分類	品目	'96.1～12月 輸出価額	'97.1～12月 輸出価額	前年比	構成比
書籍	単一シートのもの	400	121	% 30	
	辞典及び事典	127	134	106	
	その他のもの	18,215	17,351	95	
	小計	18,742	17,606	94	% 79
新聞・雑誌	一週4回以上発行	136	116	85	
	新聞	8	5	63	
	雑誌その他の定期刊行物	4,598	4,697	102	
	小計	4,742	4,818	102	21
	計	23,484	22,424	95	100

(表11) 1990～1997年、書籍、新聞・雑誌の輸出通関統計表

(単位 百万円)

歴年	書籍			新聞・雑誌			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1990	31,730	% 107	95	5,141	% 115	86	36,871	% 108	94
'91	29,296	92	88	5,085	99	85	34,381	93	88
'92	28,056	96	84	5,163	102	86	33,219	97	84
'93	23,154	83	69	4,949	85	83	28,103	85	71
'94	20,512	89	61	5,018	101	84	25,530	91	65
'95	18,111	88	54	4,872	97	81	22,983	90	58
'96	18,742	104	56	4,742	97	79	23,484	102	60
'97	17,606	94	53	4,818	102	81	22,424	95	57

計推移表

(注) 上記表のうち指数は、過去最高の輸出額であった1985(昭和60)年を100として算出した。

(表13) 書籍、新聞・雑誌計の、輸入と輸出の構成比率

分類	1979	'84	'85	'87	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97
輸入	% 70	50	46	50	54	58	59	61	65	68	% 71
輸出	30	50	54	50	46	42	41	39	35	32	29

推移表

[分析]

1997年1～12月の輸出は、(表11)のようにまたもや5%ダウンして、1985年比57%という不振の数字となった。輸出額は、輸入額との合計額の中で29%(表13参照)しか占めていない。中でも書籍の不振は大きく、'85年比33%、即ち47%減となっている。

なお、書籍の輸出額で8億円以上は、次の7カ国である。①米 68億円、②香港 12億円、③台湾 10億円、④韓国 9億円、⑤英国、⑥ドイツ、⑦中国、いずれも8億円である。昨年は、日本の出版界も、書籍の販売額が初めて前年実績を1.8%下回った。出版活動は活発だったが、返品が急増したための模様。(終り)

パソコン外論考 (其6)

宇田川一彦 Udagawa Kazuhiko

◆覚えるのは「超」簡単。忘れるのは「超」難しい。

／It's easy to remember, and so hard to forget.

席不正、不坐、

He did not sit, unless his mat was straight.

(論語／郷党・Confucius; The Analects／Book X)

【超拙意訳；先生は坐られる前に、(礼儀として) 席(たたみ)の向きを直してから坐られた。】

〔外註；読みは、「席は、正されざれば坐せず」と読んでみました。通常は、「席正しからざれば坐せず」と読めます。これは、吉川幸次郎博士の説に拠っています〕

時折散策に行く桜新町(東京・世田谷区)の山桜並木がその淡紅色の花を一気に開花させています。早いもので、4月も終らんとしています。

今年こそは連休のときに弘前市の「桜」見物と2年に1回開催の'7th. World Masters Swimming Championship'、(今年は6月下旬)に念願(というよりは悲願)の参加計画を実行したいと思っていますが……。

特に、水泳大会は、Casablanca (Morocco)で行われるので、終了後にはスペイン人では小生唯一の友人父子が住む世界遺産 La Palma 島 (The Canary Islands) で、京都以来の再会をと考えています。

ってなことを、夢想しているうちに、パソコン界もなんだか喧しい声が聞こえてきます。

やれ、ひとり勝ちのかの OS、Win95 の後継 (その実態は versionup? だったら、かつてのように「甘い汁」は、でも BASIC 以来日本には泥鰌が結構いたから、分からないか) の OS と称されている、Windows 98 (以降 Win98) が、米国では 6 月 25 日発売予定。

日本では 1 か月遅れとか。(天の声；なめやがって！日米同時開発なら同じ日に売れ！ええいついでだ！もうひとつ。結構 bug いっぱいの「Word97=びったし言葉 97」の versionup 版を新製品の衣装を着せて「Word98 (これら一連の数字の magic は、先号を参照)」として日本だけで出すとか。なにかい？米国では bug-fixed-version は、無料で配布したくせして、日本だけは「有料」だったじゃん？どうゆう了見？まあ、いいかぁ。)

ということで、今回は「喧伝の OS/Win98」にまつわるものをひとつ考えてみます。

Win98=Win95 から見れば「操作性」の向上という

のがウリになっているようです。

で、わが国最大手の PC メーカーなどは、「次世代仕様」ってなことで宣伝しています。そのうちのひとつに、「周辺機器類」を容易 (printer などが) に接続できる USB (Universal-Serial-Bus) connector が付いていることを声高らかに謳っています。これは、いままで keyboard、mouse、printer とかのバラバラだった接続方式を統一するという「錦の御旗」。これを使用すれば PC の電源が ON 状態でも「抜き差し」可とか。こんなことぐらい今の PC でも？と不思議に思うが、いかがなものか。まあ、安全云々と御託を並べるのがオチ。

そこで、PC のなかで、speed という点ではいちばん最後に走ってくる runner である Printer に、この USB の付いたものを買っておけばいいのかという安心かという問題です。結論は、しばし「熟考」のほどを。

この USB の data 転送速度は、現在の Printer の世界標準というか defacto-standard である parallel よりちょっとだけ速い毎秒 12MB (メガビット Mega-Bit) です。じゃ、少しでも速い方が、と思っただけいいか。というのは、この USB には対抗馬がいます。米国電気電子技術者協会、略称、アイトリプルイー IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.) の規格は、毎秒 400MB。

てなことになると、printer 業界でも、「熟考中」というのが本音。あわてて、「次世代仕様」にも飛びつかないことが肝要です。この件は次号も。乞御期待。

【宇田川の諦念・推奨割り切りコンピューター】

●車でいえば、Benz の S クラスがいいと思う方へ
*CPU : Pentium/400MHz *HDD : 2GB 以上 *Memory : 64MB 以上 *CD-ROM/drive : 32倍 以上 *Video Memory : 4MB 以上。

★Win95 を install 済みで、Price は 20~23 万円が条件。

●車でいえば、Honda の Civic クラスでいいと思う方へ
*CPU : Cyrix または AMD などの互換 CPU で MMX / Pentium/200MHz 以上 *HDD : 2GB 以上 *Memory : 32MB 以上 *CD-ROM/drive : 24 倍速 以上 *Video Memory : 2MB 以上

★Win95 を install 済みで、Price は 13 万円前後が条件。

〔ただし、この価格的には、車の譬喩的誇張とは比較にならないものです。と言っていたら、本家の Intel から、Pentium の廉価版というか、「互換 CPU つぶし・たたき」の Celeron/266MHz の CPU が発売。ったく……〕

日英語の比較、新しい発想

島岡 丘

世紀末にはいろいろなことが起こるらしい。19世紀末には世紀の終わりはこの世の終わり、という世紀末思想まで出現、若い人たちに暗い影を落としたこともある。

未来のことはよく分からないことはたとえ専門家でもよく予想が外れる。新聞を賑わす経済指標の予測、プロ野球の優勝チームの予測、株価その他予測はむしろあたらないのがこれまでの予測であった。イギリスの歴史家 Arnold Toynbee が語っているように、未来の予測は過去の出来事、しかも遠い過去の出来事とその結果を研究することによってしか分からないのかもしれない。

しかし、これだけはあたりというものが、われわれの年令である。1年たてば確実に1年老いる。年を取って、ある日、突然体がいうことをきかなくなることもないわけではない。そうなるからああしておけばよかった、こうしておけばよかったと後悔しても後の祭りだ。

人生の生き方は二通りあるようだ。一つはスペシャリストとして生きる、もう一つはよき一市民として生きることだ。この両方を兼ね備えて生きている人は羨ましいし、また望ましいことではあるが、今世紀のきびしい社会情勢は一連のスペシャリストとして生きることを求めているようだ。オリンピック出場の手選手にしても長年の特別訓練をしていなければ出場する権利さえ得られないし、建物の水漏れや雨漏りは鉛管工事のスペシャリストの知識と技術が必要である。

何かモノを対象とする場合は専門知識を積みあげ改良改善ができるが、コトバを対象とするときは専門知識だけでなく、無意識のうちに培われる感性とか態度などがかわってくる。最近このことを意識し始めたのは日本文化と欧米の文化との基本的な違いである。どんなに英語力を積み上げたつもりでもどうしても英語にならない表現が日本語の中に少なくないということである。一時、翻訳機が話題になったが、それはごく簡単な社会的必要性を果たそうするとき、日本語のある表現を英語でどう言うのかを予めリストを作っておき、第 n 番目の機能が駅へ行く道を尋ねることであれば、それを英語ではどう言うかの符号を一致させればよいわけである。今はもっと精巧な翻訳機ができているようではあるが、所詮はまず人間が作るものであり、作る段階でいくつもの困難がある。

ついこの間、友達のすすめで読んだ本に、中公新書12にある荒木博之著『日本語が見えると英語も見える』があるが、これには日本語はファジーでありのままを絵画的に描き出すのに対して、英語は現象を概念化して論理的に組み立てるという趣旨の内容で、日本語に多いオノマトペを英語に直すときの難しさ、また和英辞典編集者の硬直した考え方を指摘している。たいへん参考になったのは日本語では1語で表すオノマトペを、英語では2語以上で表すとピッタリと日本語で言いたかったことを英語でも言い表せる例を掲げてくれていることである。「ホッカホカのご飯」は steaming hot rice で、この表現に達するには英語を母語とする人とのディスカッションが必要であったとある。

この本にあげられている例は英語の作文をする際、たいへん参考になると思われるので、いくつか例えを引用させていただき、読者と考えてみたい。

- 1 よぼよぼの老人
- 2 ぼろぼろの毛布
- 3 ぶりぶりした寒天 (jelly)
- 4 ぼさぼさの髪
- 5 しどろもどろの答え
- 6 りりしい若者
- 7 つるつるした氷
- 8 しこしこしたあわび (abalone)
- 9 とろんとした目
- 10 ほかほかした春の一日
- 11 ふっくらとしたおいしいまんじゅう
- 12 けなげな少年
- 13 まるぼちゃの顔
- 14 せつない恋心
- 15 ごつごつした手
- 16 しとやかな女性
- 17 うねうねと続いている丘
- 18 はげちょろけのカーテン
- 19 がっしりした男
- 20 うじうじした男の子

これらに対する著者の解答は次の通りである。

1 a feeble [shaky] old man 2 torn and worn out blanket 3 flesh and springy jelly 4 uncombed and messy hair 5 logically unconnected and confused answer 6 a brave, noble and high-spirited (young man) 7 smooth and slippery ice 8 chewy

and rubbery abalone 9 eyes, cloudy and out of focus 10 a warm and comfortable spring 11 a soft, meaty and tasty manjyu 12 a boy admirably diligent and hardworking under adversity 13 a nicely rounded cute face 14 sad and painful love 15 roughened and hardened hands 16 a graceful and modest lady 17 hills continuing like waves rising and falling 18 a partly faded curtain 19 a strongly built man 20 a boy who is timid and hesitant

以上の訳は著者も述べているとおり、市販の5種類の和英辞典には出ていない。その理由は編者のみならず、英語教育関係者は1語の日本語に対して1語の英語があるという誤った大前提のもとに考えているからだと言う。実際は、一つの日本語は複数の意味の束であり、それを1語の英語で対応するのは無理であることを述べている。無理して1語の訳を与えようとすると必要以上に難しくなり日常語から離れてしまう。むしろ、日本語にはフエジーを好むオノマトペの表現があり、これを英語にするには

A and B...

の表現をするとよいことが上の多くの例でも明らかである。

この提案は英語教育全般に、また日本人の英語力を飛躍的に向上させる手がかりを示唆しているとも思われるので、長年、英語教育と英語教材執筆に携わっていた経験から述べてみたい。

A and Bの表現は、教科書では次のような表現に出会う。come and see me (立ち寄る), Bread and butter (バターつきパン), bed and breakfast (朝食付き1泊宿), nice and warm (とても暖かい), rough and ready (大雑把な), first and foremost (まず第一に), wait and see (様子を見る), ...などの表現を見て、andは「そして」の意味ではなく、同時の意味であること、さらにXの意味は

$$X \rightarrow \begin{bmatrix} A \\ B \end{bmatrix}$$

の他に

$$X \rightarrow \{A \text{ and } B\}$$

と表現することが可能であることを覚える。上例の12番

は特に興味深いのは「けなげな」にあたる英語を考え出すのに「中間日本語」を考え、

〔弱小性〕

〔逆境性〕

〔忍耐性〕

〔勤勉性〕

をそのことばの中に認めている(参照:上記12番目)。

音声研究の分野でも、例えば、/p/という音の中に

〔両唇性〕

〔閉鎖性〕

〔無声化〕

という音声特徴を認めることによって音声相互の関連性、対立性が明確になることを肌で感じとることができるが、音声分析の方法が異言語間の意味の比較分析でも有効に働くことを知ってたいへん勇気づけられるであろう。

残されているのは以上のようないわば内在的にもっている音声や意味特徴の他に強弱や高低、さらにコンテキストなどの可変的な特徴とがどのように関連するのを見極めていくことだろうと思う。これらの点が明らかになると新しい研究や教授法の世界が広げられるように思われる。

外国語の習得が日本人が不得手なのは、単に日本語と英語とが極めて異なっているだけではない。根本的な問題は物事を正確に観察し、それを最も適切なことばで表現するという訓練が不足しているからであると思われる。極端な例では、Pill the potatoes. という文があれば、それを「芋を剥きなさい」と日本語に移し変えるだけで、芋=potato, 剥く=pillとすることで、potatoはa roundish white vegetable with a brownish skin (cf. CIDE) (丸みのある白い野菜で、茶色みの皮がついている)というような観察と定義とに何ら時間をかけようとしなかったことである。

やはり、英英辞典の定義を活用するのが英語力だけでなく分析力、観察力、表現力をつける最もよい方法であるように思う。定義に用いる語数を2,000~3,500語に制限している学習辞典(learner's dictionary)が有効であろう。

(茨城キリスト教大学教授)

Mr. Bean

世界中で大ブレイク
英国テムズ・テレビジョン制作



ミスター・ビーン

90年代の超大物!? われらが天才コメディアン、ローワン・アトキンソンが、笑いの本質を突きぬけてしまったナンセンス・ギャグを連発連発そしてまた連発。エミー賞をはじめ数多くの世界的なコンクールで高い評価を得た第一級のTVコメディをオリジナル版で13作品一挙発売。図書館内無償上映・授業利用可能な著作権処理済み。安心してご利用いただけます。

「ミスター・ビーン」ビデオ26分×13巻各巻¥20,000セット価格¥200,000(いずれも税別) 好評発売中



CDI

BBC(英国放送協会)ワールドワイド社 日本総代理店
株式会社 キャリア・デベロプメント・インタナショナル
グローバルメディアグループ
東京都港区三田3-13-16 三田43 森ビル7F 〒108-0073
TEL.(03)5445-2959 FAX.(03)5445-2937

SONY
Group

1998年4月 通巻第371号 洋書輸入協会 編集者 高橋 紘

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

印刷所=藤本総合印刷株式会社